



**Data**

監督：バッシュ・ヤン  
 出演：ジャッキー・チェン／エレイン・チョン／リン・ポーホン／イーサン・ルアン／リン・ポン

### ■ショートコメント■

◆私は基本的にジャッキー・チェン映画が大好き。『シネマ 44』でも、「第11章ジャッキー・チェン40周年おめでとう」で直近の『ドラゴン・ブレイド (天將雄師／DRAGON BLADE)』(14年)、『レイルロード・タイガー』(鉄道飛虎／Railroad Tigers) (16年)、『カンフー・ヨガ (功夫瑜伽／Kung Fu Yoga)』(17年)の3本を収録した。  
 あのアクション俳優も1954年生まれだから、とうに還暦を過ぎ、近時はそれに見合った役をうまく選んでいたが、アレレ、本作を観ると・・・。

◆太宰治や手塚治虫など日本の文化人たちに影響を与えた、怪異短編集の最高傑作が中国の『聊斎志異 (りょうさいしい)』。これは、491編から構成されており、世に伝わる奇異な事柄を収集したものだ。その中から、キン・フー監督の『侠女』(71年)、『シネマ 44』182頁)、ツイ・ハーク監督の『チャイニーズ・ゴースト・ストーリー』(98年)、ドニー・イェン出演の『画皮 あやかしの恋』(08年)などが映画化されている。  
 しかして、本作では、その作者である蒲松齡 (ホ・ショウレイ) にジャッキー・チェンが扮しているが、さて、その役割は？

◆本作のテーマは、ズバリ、人間 vs 妖怪。そのため、チラシには「“レジェンド” ジャッキー・チェンが、今度は文豪妖怪ハンターだ！」の見出しが躍っている。そして、そのストーリーはチラシによれば、次のとおりだ。

妖怪の世界から人間を守っていたバリアが壊れ、たくさんの妖怪たちが押し寄せてきた。彼らを捕らえるため、凄腕の妖怪ハンターで小説家でもあるブウ(ジャッキー・チェン)が人間界に送り込まれる。ブウは「陰陽の筆」の力を使い、邪悪な妖怪たちを地獄に封印するミッションを遂行。あるとき、村の少女たちが美しい二人の女妖怪によって次々と誘拐される事件が発生する。捜査に当たるブウ。そこへ正体不明の男チュイシャ(イーサン・ルアン)が現れ、女妖怪の一人シャオチン(エレイン・チョン)がかつては人間で、愛する者のために妖怪になったという哀しい過去を語る。難しい選択を迫られるブウ。シャオチンを捕らえるのか、それとも…

◆CG 技術 (処理) によって、えらく若返ったジャッキー・チェンの姿は少し異様だが、若手の共演者はイケメンと美女ばかり。それはそれでいいのだが、いかんせん、肝心の人間 vs 妖怪の物語は単純そのもの。また、CG を駆使した (だらけの) 映像も、なぜか本作はイマイチ。その結果、本作は到底お薦めできないレベルのものに・・・。

2020 (令和2) 年1月22日記